

「おがわ学の構築・実践」-学校と地域の未来を創ろう！プロジェクト-

現状と課題

人口減少・・・小川町人口H8:約3万8千人 R2:約2万9千人
 高校統廃合の危機・・・生徒数H8:約960人 R2:約590人
地域の伝統校の存続は、地域の活性化とも深く関連
学校と地域が共通認識を持って、教育に取り組む必要性

取組

学校と地域が協働し、各教科の中で地域資源を活用した課題解決学習を導入
「おがわ学」→【生徒：資質・能力の向上】+【地域：魅力化】

地域への愛着・誇りを育む教育

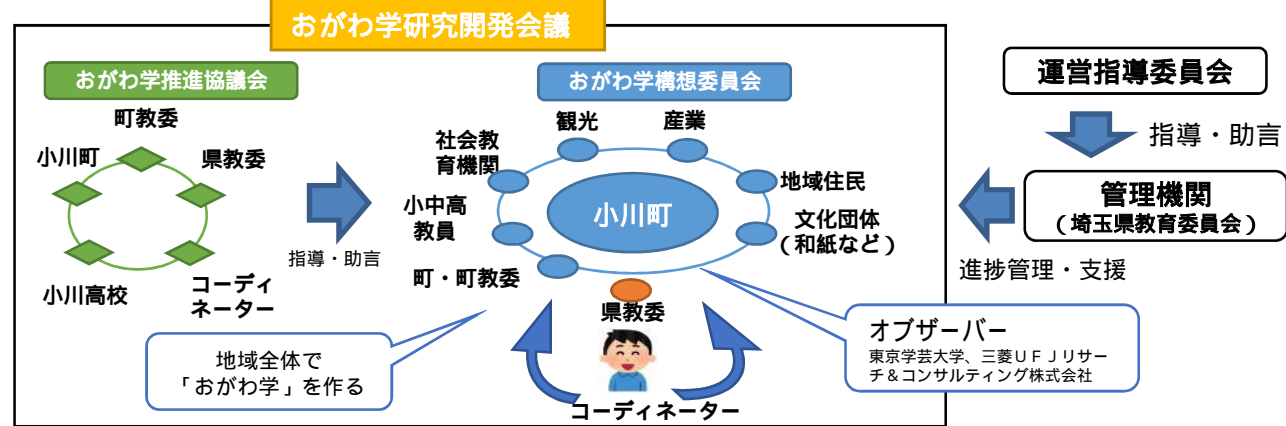
未来を切り開く力の育成

地域の文化・伝統への再注目・地域の課題への問題意識

探究的な学びを通じた課題解決力の育成

研究開発体制

- おがわ学推進協議会（年5回実施）
小川町・町教委・県教委・小川高校・コーディネーター 計5名
- おがわ学構想委員会（年5回実施）
小川町・町教委・小中高教員・PTA・地域住民・社会教育機関
・文化団体・産業界・観光関係・県教委（教育事務所含む）
・コーディネーター 計35名程度
- おがわ学担当者会議（年9回実施）
構想委員会の作業部会 計24名
- おがわ学運営指導委員会（年3回実施）
学校教育に専門的知識を有する者・学識経験者
・関係行政機関の職員等 計5名



令和2年度の目標



- 1 小学校、中学校、高等学校それぞれの「おがわ学テキスト」の作成
- 2 おがわ学研究開発発表会「おがわ学フォーラム」の開催
- 3 「おがわ学リーフレット」の作成と「おがわ学ホームページ」の開設
- 4 各校種・地域・行政の連携・協働によるネットワークの確立

取組状況

- 1 小中高それぞれのおがわ学の構築・実践を経て、各校種の「おがわ学テキスト」を作成した。
- 2 令和3年1月29日に「おがわ学フォーラム～おがわ学研究開発発表会～」をオンラインで実施し、地域内外に向け取組を広く発信した。
- 3 「おがわ学フォーラム」に向け、リーフレット作成やホームページ開設を行い、取組を紙面や授業動画等で発信した。
- 4 授業づくりや取組の発信などに際して、各校種・地域・行政の連携・協働が密になり、人・物・情報のネットワークが確立された。

成果と課題

成果

- 各校種における「おがわ学テキスト」をはじめ、「おがわ学リーフレット」「おがわ学ホームページ」を作成・開設し、これまでの取組を地域内外に広く発信した。
- 「おがわ学フォーラム～おがわ学研究開発発表会～」をオンラインで実施し、コロナ禍の中、約850名の参加を得た。

課題

- 各教科・科目において「おがわ学の構築・実践」を行い、生徒がより多くの「おがわ学」に触れる機会を創出する。
- 「おがわ学」と「探究的な学習」及び「GIGAスクール構想」を関連付け、ICTを活用しながら、課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現の「探究のプロセス」をより強調した学習を行う。
- 「おがわ学の構築・実践」を通してカリキュラム・マネジメントを行う。